

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 5/5 日曜日 ベルブホール (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

女の子よ カメラを持とう × TAMA CINEMA FORUM

～ 映画の中の私たち ～

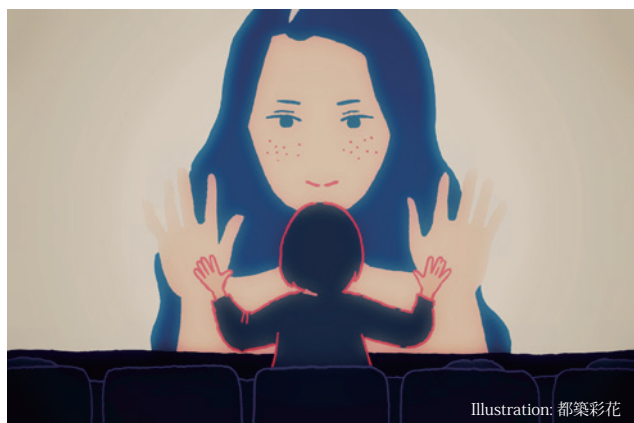


Illustration: 都築彩花

チケット料金

前売：大人 (中学生以上)	1,500 円
当日：大人 (中学生以上)	1,800 円
子ども (4歳～小学生)	1,200 円

(TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者 1名は当日 1,200 円です)

ゲスト

- ① 山戸結希監督、金原由佳氏、宇野維正氏
- ② 山戸結希監督、睡蓮みどり氏、
(朗読：ひらく氏、上埜すみれ氏)

上映スケジュール

【プログラム1】

11:00 — 12:04	『おとぎ話みたい』 + 『COSMOS』『Girls of Cinema』
12:20 — 13:59	『タイニー・ファニチャー』
14:05 — 14:45	トーク

【プログラム2】

16:00 — 16:58	『あの娘が海辺で踊ってる』『Girls of Cinema』
17:15 — 18:54	『タイニー・ファニチャー』
19:00 — 19:40	トーク

*全席自由・各プログラム入替制

*チケット1枚につき、プログラム1・プログラム2のどちらかひとつのプログラム観賞可

*開場はプログラム開始の15分前です。*上映時間は変更になる場合があります。

●●●●●● 上映に寄せて ●●●●●●

今回のイベントの最初のきっかけは昨年5月に行った『ひなぎく』の特別上映会に山戸結希監督が観に来てくださったことです。その後、山戸監督があたためていた「女の子よカメラを持とう」企画のことを伺いました。今、日本で一番私たちがドキドキさせてくれる監督が「女の子が映画を撮ること」をテーマにイベントを考えていると聞いたら黙っていられるはずがありません。賛同する実行委員が集まり、すぐにプロジェクトチームが立ち上がりました。

上映するのは、ドラマ『GIRLS/ガールズ』の大ヒットで今や世界中の注目を集めるレナ・ダナム監督の長編映画デビュー作『タイニー・ファニチャー』。本作でレナは監督・脚本・主演を務め、すでにクリエイターとしての才能を開花させています。山戸監督からのリクエストで上映が実現しました。さらに山戸結希監督の原点となる『あの娘が海辺で踊ってる』ほか4作品を上映。

素晴らしいゲストの皆さんを迎えてのトークや朗読も実施します。観に来てくださった方々が何かを持ち帰っていただけたらうれしいです。(黒川)

『緑の光線』と「映画の中の私たち」について

『緑の光線』（監督：エリック・ロメール / 原題：Le Rayon Vert / 1986年 / 98分 / フランス）

世の中には2種類の人間がいる。それは、花を摘む人間と花（＝自然）になる人間だ。

旅先で主人公の女性デルフィーヌが一人林の小道を散歩しながら全身で大きな自然（草木・花・風のすべて）と同一化しながら感傷に浸っている。その後彼女が待ち合わせ場所に戻ると、同行の女たちから嬉し気に摘み取った花束を渡されそうになる。その絶望的なショットの断絶に、思わず吹き出すと同時に切ない涙が込み上げてくる。

繰り返す。世の中には2種類の人間がいる。それは、世界を言葉（＝コミュニケーション）のレベルで捉える愚かな者と、世界をそれとして知覚する喜びを知る者だ。「映画の中の私たち」という言葉が真に示すのは、後者の全き喜びに貫かれた孤独な共同体のことである。（佐藤）

ERIC ROHMÉR
Le Rayon vert

おすすめ女の子映画作品

GIRLS ① 『6年愛』

今回の特別上映会「～映画の中の私たち～」で上映される『タイニー・ファニチャー』のレナ・ダナム（1986年生まれ）とほぼ同世代で、世界で最も注目されている監督の1人であるハンナ・フィデル（1985年生まれ）の長編3作目。

6年間付き合っている幼なじみの大学生カップルが、卒業、就職を控えて浮上してくる不安や希望を描いたラブストーリー。少しのすれ違いから揺れ動く微妙な心理描写や、人の弱さをリアルにみせる演出力は圧巻で心に突き刺さり、大切な人の存在を考えさせられる作品。2人に寄りそうカメラワークも必見である。

また、この作品を制作しているデュプラス兄弟が作った会社は、他にも『ブルー・ジェイ』『クリープ』『ザ・ワン・アイ・ラブ』などインディペンデントの良質な作品を数多く手掛けていて、今後注目すべき2人である。Netflixで前作『女教師』と共に配信中。

監督・脚本：ハンナ・フィデル / 製作総指揮：マーク・デュプラス、ジェイ・デュプラス / 出演：タイッサ・ファームガ、ベン・ローゼンフィールド / 2015年 / 85分 / アメリカ

GIRLS ② 『呼吸－友情と破壊』

女優としても活躍しているメラニー・ロランが「自己愛の強い倒錯者について語りたかった」という思いを見事に表現した意欲作。

些細なことがきっかけで崩れてしまう10代の少女2人の友情を女性監督ならではの視点で鋭く描き、嫉妬、束縛からくる全く想像もつかない狂気は息もできなくなる怖さである。

また、音楽の使い方もセンス抜群でFUN.の“We Are Young”で新年を祝う場面は、恐ろしく痛烈で記憶に刻まれるシーンである。

エル・ファニングとベン・フォスターが出演するクライムスリラー“Galveston”は今年のSXSWで上映され、大変話題となった。

監督としての非凡な才能にこれからも注目していきたい。

監督：メラニー・ロラン / 出演：ルー・ドゥ・ラージュ、ジェゼフィーヌ・ジャピ、イザベル・カレ / 2014年 / 92分 / フランス

GIRLS ③ 『タンジェリン』

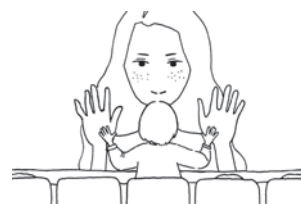
全編 iPhone5s で撮影された、クリスマスイヴのロサンゼルスの下町を舞台に浮気された彼氏を見つけて、こらしめようと奮起する親友2人のガールズ・ムービー。

様々な人種、考え方を共存させるアメリカ社会の闇を映し、偏見で差別されながらも何事にも屈せず力強く生きる彼女たちに優しく寄り添う作品である。

彼氏の浮気相手の女性を見つけようとするなかで中盤以降、色々な人が関わり合う群像劇としての面白さに思わず爆笑してしまう。

親友と怒鳴りあいケンカもするけれど、そのあとの小さな思いやりがとにかく美しく、これ以上ないほどの愛が感じられる作品。Netflix、DVD 発売中。新作の『フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法』は5月12日から劇場公開。（飯野）

監督・脚本：ショーン・ベイカー / 製作総指揮：マーク・デュプラス、ジェイ・デュプラス / 出演：キタナ・キキ・ロドリゲス、マイヤ・テイラー、カレン・カラグリアン / 2015年 / 88分 / アメリカ



映画 レビュー

『みつこと宇宙こぶ』

2017年/40分/竹内里紗監督

2017年のTAMA NEW WAVEコンペティションにノミネートされた『みつこと宇宙こぶ』が5月の田辺・弁慶映画の特集にて上映されます。竹内監督は、大学の卒業制作『みちていく』（2014）で2014年のTAMA NEW WAVE グランプリを受賞した要注目の映画監督です。山戸結希監督が企画・プロデュースするオムニバス作品『21世紀の女の子』にも参加されています。



© 東京藝術大学大学院映像研究科

作品情報

監督・脚本：竹内里紗 / 脚本協力：峰尾賢人 / プロデューサー：池本凌太郎、関口海音 / 撮影：松島翔平 / 照明：諸橋和希 / 美術：侯捷 / 出演：小松未来、金田悠希、島野颯太、宮野叶愛、百合原舞、伊原聖羅 ほか

【あらすじ】最近「こぶ」の中身についてよく想像をふくらませてる。学校に行く道でも、お風呂に入っているときも、夜に眠れないときも、ずうっと考えちゃう。だって「こぶ」の中身がわかれば、他のことについてもわかるような気がするんだ。

上映情報

「田辺・弁慶映画祭セレクション 2018」@テアトル新宿 5/29 (火) ~ 6/1 (金) 竹内里紗監督『みつこと宇宙こぶ』併映：『感光以前』『FOLLOW』『渦』『みちていく』『ハズレときどき恋』※日替わりにて上映

レビュー

みつこのその丸っこい姿と腕っぶしの強さは、小怪獣（ミニラ？ モスラの幼虫？）を思わせる。冷静な突っ込みを入れる眼鏡の少年（「めがねくん」と呼びたいいいキャラ）を力で押し伏せるほど、彼女は同級生の男子の子のこぶに執着している。彼女にとってこぶは世界そのもの。膨らむこぶの妄想は、やがて宇宙をこぶと化す。

みつこと「めがねくん」が日々の生活を送りながら共に成長していく本作は、冒頭のホームビデオに取り残された幼少期のみつことという王女を、愛らしい「めがねくん」という騎士が救出する、あるいは脱出を手助けするおとぎ話のように見るができるだろう。児童絵本のような遊び心溢れる仕掛けも施され、思春期の成長や生と死といった様々なモチーフが40分の中にギュッと詰まった、にぎやかで魅力的な作品に仕上がっている。

上映会 レポート

4/7(土) ベルブホール

アキ・カウリスマキ 監督作品

THE OTHER SIDE OF HOPE

希望のかなた

第2回目の上映後に、朝日新聞記者・藤えりかさんと kinologue 主宰・森下詩子さんをお招きしてトークイベントを開催しました。

「フィンランドにどんなイメージを持たれていますか？」という藤さんの観客への投げかけからスタートし、藤さん自身も持っていたという“いい国”イメージのフィンランドとは異なる一面が見える本作の印象について二人のトークが繰り広げられました。

本作ではフィンランドにおける難民の困難が描かれています。フィンランドを代表する監督カウリスマキが、シリア人難民を主役にして自国フィンランドのいわばネガティブな面を撮ること自体、「監督の危機感の強さを感じた」と藤さん。「実際、近年フィンランドで排外的な政党が台頭してきていることは知っていたが、暴力的なシーンは衝撃的だった」。カウリスマキ作品の大ファンでもある森下さんもそのシーンについて「ショックだった。今までの作品にはなかったもの。でも今監督が表現するためにはこれが必要だったんだろうと思う」。

フィンランドだけでなく世界的な傾向としての排外風潮、難民問題に対する監督の強烈な問題提起を、あらためて感じる事ができました。（大坂）



(写真左：藤えりかさん、右：森下詩子さん)

次回特別上映会は6月9日(土)『ニーゼと光のアトリエ』を上映いたします。ショック療法が当たり前とされ、精神病院が患者を人間扱いしていなかった時代を背景に、画期的な改革に挑んだ女医ニーゼの苦闘を描いた真実の物語です。2015年東京国際映画祭において、グランプリと最優秀女優賞をW受賞した作品です。

ぜひご来場ください。

監督：ホベルト・ベリネール / 2015年 / ブラジル / 109分
カラー / ヴィスタ / R15+
配給：ココロヲ・動かす・映画社○



© TvZero

お知らせ
コーナー

《実行委員募集説明会開催》平日活動できる方をお待ちしています！

TAMA映画フォーラム実行委員会は、2018年11月17日～11月25日に開催予定の第28回映画祭TAMA CINEMA FORUMと一緒に作る実行委員を募集しています！興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか？

5月27日(日)に第3回目の実行委員募集説明会を開催いたします。(以下の条件にあてはまる方)

・平日1～2日活動できる方

もしくは

・多摩市内在住・在勤・在学の方

ご興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。詳細はホームページをご覧ください。

支援会員制度のお願い

当映画祭と一緒に支えていただける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポートを！ご支援いただいた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願いいたします。

[支援金寄付 個人会員] 一口1,000円

郵便振替番号 00160 - 5 - 541123 加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①：映画祭チラシ送付

特典②：映画祭パンフレット贈呈

特典③：特別上映会割引(当日チケットを支援会員特別価格に！上映会は2～8月の間に4～5回開催予定です)

※その他特典もご用意する予定です。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org



@tamaeiga (最新情報をフォロー)



www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)